

チームビジュアルライザ 『地元いるビジュアルライザ』

環境情報学部3年 根岸明子

[概要]

チームビジュアルライザは、2010年8月1日から同年9月22日にかけて、海沿いの地域性を収集し、その情報を特殊な方法でマッピング/投影することにより見た人に地域における新たな気付きを与え、その地域に住むことの尊さを伝えるビジュアルライザの制作と実証を行なった。

アートイベントの活動の一環として立ち上げた研究であり、実際の制作はアーティストに行なってもらい、その作品の効果を考察した。

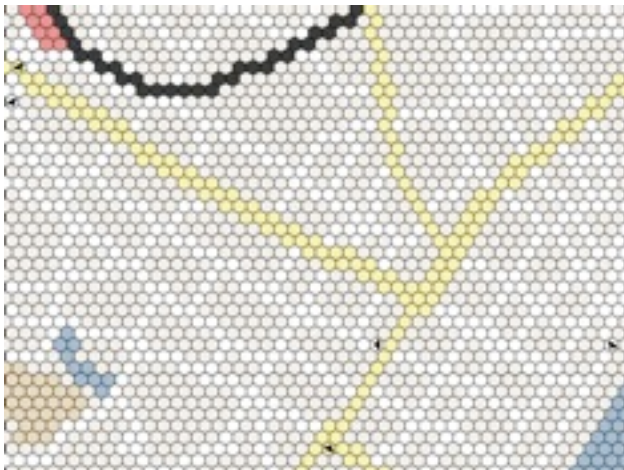
『地元いるビジュアルライザ』に参加していただいたアーティストの主な作品とその考察を成果報告とする。

[詳細]



中垣氏の「湊音」は、那珂湊駅と那珂湊の商店街に特殊なスタンプを設置し、そのスタンプを集めて那珂湊駅のカメラにかざすと、スピーカーからその場所の音が流れてくるスタンプラリー形式の作品である。

この作品により、目当てに商店街に来る観光客と店の人の交流を促進する効果が見られた。また、地元に住んでいる方も那珂湊駅で音を聞き、これはどこの音、これはここの音、これは？と普段耳にしている気付かない音に楽しみを見いだしていた。



田島氏の映像インスタレーション作品、「circuits」は、展示舞台となった那珂湊をシミュレーションゲームのような視点で表現したものである。六角形の地図、「動き」を意味するコマ、上を向いたブラウン管とテレビゲームなどは全てシミュレーションゲーム的な視点を意味している。2年間の氏の那珂湊でのプロジェクトを通して、この場所には交わらない「人の動きの循環(circuit)」を見いだしたことからこの名前がついた。



この作品も現地の住民から新たな土地の視点として受け入れられていた。奇抜な外観に導かれて画面を覗くと、自分たちの住んでいる町の地図が幾何学模様として表現されている。

上から地図を見るだけでも興味深いものがあるのに、それがさらに人の手により加工されていることで、より不思議な感覚を誘発することができるようである。

[今後の展望]

今回、地域性の情報を取り入れた作品を制作／展示するなかで、普段美術に親しむ機会の少ない人をどのようにアートイベントに参加させ、イベントを盛り上げることができるかを学ぶことができた。

説明の多く必要なものは浸透せず、見ただけで分かるものやインタラクションがはっきりしているものは地域の住民の人気があった。その場所の地域性は、住み慣れてしまった人にはある一面しか見えていないことがある。外から来たものが、新しい視点をアートを通して伝えられたら、気付きをもたらし、街に新しい風を吹き込むことができるのではないだろうか。ということを経験した。

この気付きを元に来年、更に作品数を増やし、地域の特徴を盛り込んだアートイベントを行いたいと思う。

[謝辞]

今回の活動は2010年湘南藤沢学会「シンポジウム・研究ネットワークミーティング基金」の支援により行なわれた。